

1 年道徳報告書⑤

1 年主任 佐野修一郎 R3. 7. 20

今回の教材は「黒い弁当」です。主題は「かけがえのない家族」です。

祖母の優しさに甘え、手作りの黒い弁当を食べずに捨ててしまった中学生時代の「私」。無私の愛情を注いでくれていた祖母に、感謝の念や敬愛の念を伝えることができなかったというあらすじです。成長を願い深い愛情で育てられていることに気づき、父母や祖父母に対する感謝や敬愛の心情を育てることをねらいとしています。

ちなみに、「黒い」とは海苔をご飯の上に置いてあることで、おかずは漬物や厚焼き卵など私の好きなものばかりです。

○黒い弁当のことが今でも忘れられないのは、どんな思いがあるからでしょう。

- ・ せっかく作ってもらったのに食べなかったという申し訳なさ、その事を謝ることのできない悔しさ。今になっていろんな事に気付いたから(バレていた事)。
- ・ 優しさで作ったのに、自分が見られたくないという理由で、食べずに捨ててしまったから。おばあちゃんが次の時、パンでも買ってと小銭を渡され、気を遣わせてしまったから。謝りたいのに謝れなかったから。
- ・ 祖母の優しさに気付かず、お礼も言わず亡くなってしまったから、祖母の尊さに気付かなかった。自分が甘えすぎてしまった。
- ・ あばあちゃんが一生懸命に作ってくれた弁当を草むらに捨ててしまった苦い思い。捨ててしまったことを謝れなかった。「ありがとう」を言えなかった後悔。
- ・ あの時、周りの目を気にしないで食べていれば、自分も気持ち的に楽だったし、おばあちゃんも喜んでいたはずと思ったから。

○心に残った友達や先生の言葉を書き留めましょう。

- ・ (主人公が)「謝りたかったのに謝れなかった。」という意見があり、その通りだと思った。
- ・ 祖母の気持ちが分かるようになった。謝りたかったのに謝れなかった。
- ・ 「ありがたいけれど、恥ずかしい思い。」という意見を言っていて、その通りだと思った。「ありがとう」はしっかり伝えるべきだと思った。



○今日の授業で感じたことを書きましょう。

- ・ 今日の授業で、今、私もサッカーの時などに、お弁当で「緑ばっかでデザートがない！」と文句を言っていたけど、私も大人になって分かるようになるから、言わないようにしたい。
- ・ 今日の道徳では、加須のしてくれることのありがたさが分かった。言いたいことは、その時に言った方が良かったと思った。
- ・ 私は、おばあちゃんと一緒に暮らしているので、おばあちゃんについて冷たい態度をとってしまうから直したいと思った。おばあちゃんは、私の好きなお菓子とか、いろんな物をくれたりするから、「ありがとう」といいたいと思いました。
- ・ 自分が謝った方がいいなと思ったことは、素直に謝りたいと思った。自分と合わない弁当などが出されても、感謝気持ちをもって食べたいと思った。作ってくれることに対してありがたいをいいたいなと思った。
- ・ 謝れる時に謝るのは、罪悪感を残さないために、後悔しないために重要だと思った。また、立場が変わると分かることがあるということが分かった。
- ・ 家族に感謝を伝えたり、謝ったりすることは普段しない。けれど、いつ何が起こるか分からないから、普段からそういうことは言うべきだと思った。
- ・ 私は、今までそこまでしっかりと感謝を伝えることができていなかったの、これからは少しずつ伝えられるといいです。もう少し、家族のことを思って生活できるといいです。

----- キリトリセン -----

ご意見・ご感想をお待ちしております。今後の授業計画の参考にさせていただきます。

お子様の名前 ()

○「道徳報告書④」への保護者からの感想

第4回の教材は「うわさで決めるの？」です。

- ・今回のテーマは、大人でも難しい問題だと思います。でも現在のような情報過多な時代だからこそ、真実を見分ける力を養っていくことは大変重要だと思います。大切なテーマだと思いますので、今回だけでなく、中学3年間を通して考えてもらいたいです。
- ・うわさで他人の性格等決められてしまい、接するのにも嫌な思いをさせてしまうことがある。うわさだけで決めつけず、良い事をしてくれる、こんな事をしてくれる…等々、教えることも必要だと思う。いじめにつながってしまうと、人間関係すべてのことが崩れてしまう。悲しい人生を歩まないためにも、お互いのためにも必要なことだと思います。
- ・良い噂に比べ、悪い噂は広まりやすいものです。噂を信じてまわりに流される事なく、自分で相手を判断できるようになって欲しいです。そして、噂やまわりの声ではなく、自分のおもった事に正直に、人と接して欲しいです。
- ・うわさや見た目で決めるのではなく、実際にその人と会話などして性格を知ってからいって欲しいです。SNSはすごく怖いです。
- ・情報や人から聞いた話をそのまま信じる人が世の中大半だと思う。その中で、何が本当か真実かを見極めるのは自分自身。自分の目で確かめ、自分の考えを持って欲しいと思います。

昔の人は、「火のないところに煙は立たない。」と言いました。そのためか、うわさが広がると「話そのままでないとしても、きっと何かあるのではないか。」と考えてしまうところがあります。今回の教材である「うわさで決めるの？」も、Bさんのことを主人公が知らなかったら、そのまま信じるか、「何かある」と考えてしまうところが、うわさの怖いところです。

かつて、先輩の教員に「うわさで人は死ぬ。不用意にうわさを信じず、その生徒を自分で見て、感じなさい。」と言われました。その時は、「死ぬはないだろう。」と思っていました。しかし、そんな行為すらしていないのに、妊娠しているとうわさされた女の子が不登校になり、リストカットを繰り返し、その子の家庭が崩壊していくのを若手の頃に経験しました。その時、本当にうわさは怖いと思いました。

今回の教材では、主人公は自分の友人グループのライン(SNS)なので、友人たちにも気を遣わなければなりません。友人関係を壊さずに、正しいことを主張するのは難しい事です。ただ、常に「正しいことは正しい。」と言える関係を作っておけば、気を遣わずに「うわさは間違っている。」と言えたのではないのでしょうか。主人公は、今まで、このライン上でうわさ話が出た際に、「良くないことだ。」と書き込んでいたのでしょうか。また、そんな正義の思いを仲間たちと共有してきたのでしょうか。友人関係を築く時に、誰かが間違った行為や言動をした際の最初の対応が大切です。そこで、間違った対応をしていなければ、安心して友情を深めていけます。なぜなら、不正義が行われているグループでは、いつ自分に不正義が行われるか分からないからです。

今回の授業は、2つのアプローチができる教材であると思います。1年の2クラスでは、うわさの怖さにテーマが絞られていました。私なら、どのような友人関係を作るべきかをテーマにしたと思います。なぜなら、安心して安全な教室を作るのは、教員の支援を受けながら、生徒自身の手によるものだからです。

